

茨城県主要農作物等奨励品種の指定について

茨城県主要農作物等種子条例第7条第1項及び茨城県主要農作物等の種子の生産と供給に関する要綱第2の3の(1)の規定に基づく奨励品種の指定を令和2年5月26日付けで次のとおりしたので公告する。

令和2年 5月 26日

茨城県知事 大井川 和彦

I 茨城県主要農作物等奨励品種の一覧

種 類		品種数	区 分	数	品 種 名
水稲 (15)	粳 (うるち)	11	奨励	5	チヨニシキ、ひたちIL3号、コシヒカリ、ゆめひたち、ひたち錦
			準奨励	2	あきたこまち、ふくまる
			認定	4	ミルキークイーン、一番星、ひとめぼれ、あさひの夢
	糯 (もち)	2	奨励	1	マンゲツモチ
			認定	1	ココノエモチ
	飼料用米	2	奨励	2	夢あおば、月の光
陸稲 (1)	1	奨励	1	ひたちはたもち	
麦 (7)	小麦	3	奨励	1	さとのそら
			認定	2	きぬの波、ゆめかおり
	六条大麦	2	奨励	1	カシマムギ
			準奨励	1	カシマゴール
	二条大麦	1	奨励	1	ミカモゴールドン
裸麦	1	認定	1	キラリモチ	
大豆 (3)	3	奨励	2	里のほほえみ、納豆小粒	
		準奨励	1	ハタユタカ	
そば (1)	1	奨励	1	常陸秋そば	
ベニバナインゲン(1)	1	認定	1	常陸大黒	

II 奨励品種の来歴、指定する理由、栽培適地及び特性

1 奨励品種の指定について

(1) 水稲「コシヒカリ」

ア 来歴

「コシヒカリ」は、福井農業試験場において、「農林 22 号」を母、「農林 1 号」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「コシヒカリ」は、中生熟期の品種であり、本県主要品種として実需から主食用米及び中食・外食用米として根強い需要があることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(2) 水稲「ひたち IL 3 号」

ア 来歴

「ひたち IL 3 号」は、茨城県農業総合センター生物工学研究所において、「ふくまる」を母、「一番星」を父とした一代雑種 (F₁) に、「ふくまる」を母とする戻し交配を 2 回行った後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「ひたち IL 3 号」は、中食・外食用として実需者から高い評価を得ている早生熟期の品種「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を導入した品種である。イネ縞葉枯病抵抗性を持つことから、これまで「ふくまる」の普及が進んでいない同病の多発地域である県西地域での増産が見込まれる。また、「ふくまる」と同等の品質であり、中食・外食用としての需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(3) 水稲「チヨニシキ」

ア 来歴

「チヨニシキ」は、愛知県農業総合試験場山間技術実験農場（現愛知県農業総合試験場山間農業研究所）において、「愛知 26 号」（後の「初星」）を母、「トヨニシキ」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「チヨニシキ」は、早生熟期の業務用米としての実需者からの根強い需要があり、今後も一定の需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(4) 水稲「ゆめひたち」

ア 来歴

「ゆめひたち」は、茨城県農業総合センター生物工学研究所において、「チヨニシキ」を母、「北陸 122 号」(後の「キヌヒカリ」)を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「ゆめひたち」は、本県オリジナルの中生熟期の水稻品種であり、主食用米、業務用米及び輸出用米として使用されており、今後も幅広い用途での需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(5) 水稻「ひたち錦」

ア 来歴

「ひたち錦」は、茨城県農業総合センター生物工学研究所において、「岐系 89 号」を母、「月の光」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「ひたち錦」は、本県オリジナルの中晩生熟期の酒造好適米品種である。玄米の心白が発生しやすく、県内の多くの酒造会社で使用されている。近年、日本酒の消費増に伴い、その需要は増えており、今後も需要の増加が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(6) 水稻「夢あおば」

ア 来歴

「夢あおば」は、北陸農業試験場(現国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター)において、日印交雑種の「上 321」を母、「奥羽 311 号」(後の「ふくひびき」)を父とする交配の後代から育成された飼料用・WCS 兼用品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「夢あおば」は飼料用米品種の中では早生熟期の品種である。大粒で耐倒伏性に優れることから、県内での作付が増えている。需要に応じた米生産の推進にあたり、今後も作付の拡大が見込まれることから、奨励品種として指定する。

ウ 栽培適地

県内全域の飼料用米生産地域

(7) 水稻「月の光」

ア 来歴

「月の光」は、愛知県農業総合試験場において、「愛知 37 号」(後の「青い空」)

と「北陸 103 号」の一代雑種 (F₁) を母、「あ系 103 B」(後の「黄金錦」) を父とした交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「月の光」はイネ縞葉枯病抵抗性を有する晩生熟期の品種である。需要に応じた米生産の推進にあたり、収量が確保しやすいことから、飼料用米生産に適した品種として作付されてきた。今後も飼料用米としての需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域の飼料用米生産地域

(8) 水稻「マンゲツモチ」

ア 来歴

「マンゲツモチ」は、農事試験場(現 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)において、「F₃ 249」を母、「山陰糯 26 号(後の「農林糯 45 号」)を父とした交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「マンゲツモチ」は、中生の晩熟期の糯品種である。餅食味に優れることから、県内全域において作付されてきた。今後も製菓用等の原料としての需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(9) 陸稲「ひたちはたもち」

ア 来歴

「ひたちはたもち」は、茨城県農業総合センター生物工学研究所において、「関東糯 166 号」を母、「関東糯 166 号」と「関東糯 168 号」(後の「ゆめのはたもち」)の一代雑種 (F₁) を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「ひたちはたもち」は耐干性及び耐冷性を有する極早生熟期の品種である。米菓の食感を向上させる副原料として加工業者から根強い需要があるため、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(10) 小麦「さとのそら」

ア 来歴

「さとのそら」は、群馬県農業試験場(現群馬県農業技術センター)において、「東山 25 号」(後の「しゅんよう」)と「西海 168 号」(後の「きぬいろは」)の一代雑種 (F₁) を母、「ニシカゼコムギ」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「さとのそら」は日本めん用向けの品種である。関東地方の小麦主要品種として、実需者から製粉品質が高く評価されており、今後も需要が見込まれることから、奨励品種として指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(11) 六条大麦「カシマムギ」

ア 来歴

「カシマムギ」は、農事試験場（現国立研究開発法人農業・食品技術総合研究機構）において、「北関東皮3号」を母、「ムサシノムギ」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「カシマムギ」は、麦茶用途として、香り及び味が優れることから、実需者から高い評価を受けており、今後も需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域の畑

(12) 二条大麦「ミカモゴールドン」

ア 来歴

「ミカモゴールドン」は、栃木県農業試験場栃木分場（現栃木県農業試験場栃木農場）において、「南系B4718」を母、「新田二条2号」（後の「はるな二条」）を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「ミカモゴールドン」は、主に乳児用の麦茶用途として実需者から一定の需要がある。また、精麦用及び醸造用にも使用されており、今後も需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(13) 大豆「里のほほえみ」

ア 来歴

「里のほほえみ」は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター（現国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター）において、「東北129号」を母、「刈交0264MYF₆」を父とする交配の後代より育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「里のほほえみ」は、大粒でタンパク質含量が高く、豆腐、豆乳及び煮豆用途として高い評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(14) 大豆「納豆小粒」

ア 来歴

「納豆小粒」は、茨城県農業試験場（現茨城県農業総合センター農業研究所）において、在来品種「金砂郷在来」からの純系淘汰により育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「納豆小粒」は、子実が小さく、小粒納豆の原料大豆として実需者の高い評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(15) そば「常陸秋そば」

ア 来歴

「常陸秋そば」は、茨城県農業試験場（現農業研究所）において、在来品種（金砂郷在来）からの純系淘汰により育成された品種である。

イ 奨励品種に指定する理由

「常陸秋そば」は本県育成品種であり、大粒で製粉歩留まりが高く、製麺加工がしやすい特性を有する。また、実需者から高い評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

2 準奨励品種に指定する品種

(1) 水稻「あきたこまち」

ア 来歴

「あきたこまち」は、秋田県農業試験場において、「コシヒカリ」を母、「奥羽 292 号」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 準奨励品種に指定する理由

「あきたこまち」は極早生熟期の品種であり、本県の早場米生産地域における主食用米及び業務用米として、実需者から一定の評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、準奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県南の早場米生産地域

(2) 水稻「ふくまる」

ア 来歴

「ふくまる」は、茨城県農業総合センター生物工学研究所において、「ふさおとめ」を母、「ひたち 20 号」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 準奨励品種に指定する理由

「ふくまる」は早生熟期の品種であり、大粒であることから、中食・外食用途として実需者から高い評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、準奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県北、県央、鹿行及び県南地域

(3) 六条大麦「カシマゴール」

ア 来歴

「カシマゴール」は、独立行政法人農業・食品産業総合技術総合研究機構作物研究所（現国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構次世代作物開発研究センター）において、「関東皮 78 号」を母、「関東裸 77 号」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 準奨励品種に指定する理由

「カシマゴール」は、「カシマムギ」を補完する麦茶用品種として実需者から一定の評価を得ている。また、オオムギ縞萎縮病抵抗性を有し、同病の発病地域においても安定的に生産供給でき、今後も需要が見込まれることから、準奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域のオオムギ縞萎縮病発生地域

(4) 大豆「ハタユタカ」

ア 来歴

「ハタユタカ」は、農林水産省東北農業試験場刈羽野試験地（現国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構大仙研究拠点）において、「スズユタカ」を母、「エンレイ」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 準奨励品種に指定する理由

「ハタユタカ」は、大粒であることから、豆腐及び煮豆用として実需者から一定の評価を得ており、根強い需要がある。また、ダイズシストセンチュウ抵抗性を有し、汚染ほ場においても生産できることから、準奨励品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域のダイズシストセンチュウ発生地域

3 認定品種に指定する品種

(1) 水稻「ミルキークイーン」

ア 来歴

「ミルキークイーン」は、農林水産省農業研究センター（現国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構次世代作物開発研究センター）において、「コシヒカリ」をMNU受精卵処理により突然変異させた後代より育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「ミルキークイーン」は、アミロース含量が低い良食味品種である。主食用米として実需者から一定の評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(2) 水稻「一番星」

ア 来歴

「一番星」は、茨城県農業総合センター生物工学研究所において、「ふさおとめ」を母、「愛知 101 号」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「一番星」は、極早生の品種であり、本県の早場米生産地域における、主食用米及び業務用米として実需者から高い評価を得ている。また、イネ縞葉枯病抵抗性を有し、同病の発病地域においても安定的に生産供給できることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

鹿行及び県南の早場米生産地域並びに県西のイネ縞葉枯病発生地域

(3) 水稻「ひとめぼれ」

ア 来歴

「ひとめぼれ」は、宮城県古川農業試験場において、「コシヒカリ」を母、「初星」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「ひとめぼれ」は、早生品種であり、県央及び鹿行地域において業務用米として一定の評価を得ており、今後も需要が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

県央及び鹿行地域

(4) 水稻「あさひの夢」

ア 来歴

「あさひの夢」は、愛知県農業総合試験場において、「愛知 70 号」（後の「あいちのかおり」）を母、「愛知 56 号」（後の「月の光」）と「愛知 65 号」の一代雑種 (F₁) を父とした交配の後代から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「あさひの夢」は晩生熟期の品種であり、業務用米及び輸出用米として実需者から一定の評価を得ている。また、イネ縞葉枯病抵抗性を有し、同病が多発している県西地域で作付の増加が期待され、今後も需要が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(5) 水稲「ココノエモチ」

ア 来歴

「ココノエモチ」は、愛知県農業総合試験場山間技術実験農場（現愛知県農業総合試験場山間農業研究所）において、「中部 26 号」を母、「稲系糯 100」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「ココノエモチ」は早生熟期の糯品種であり、早場米生産地域において実需者から一定の評価を得ている。今後も需要が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

鹿行及び県南の早場米生産地域

(6) 小麦「きぬの波」

ア 来歴

「きぬの波」は、群馬県農業試験場において、「関東 108 号」を母、「関東 100 号」（後の「バンドウワセ」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「きぬの波」は、低アミロースの小麦品種であり、学校給食のソフト麺用途として、今後も一定の需要が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

県南及び県西地域の輪換畑

(7) 小麦「ゆめかおり」

ア 来歴

「ゆめかおり」は、長野県農業試験場において、「西海 180 号」（後の「ニシノカオリ」）を母、「KS831957」を父とする交配の後代から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「ゆめかおり」は、子実のタンパク質含量が高いパン用・中華麺用品種である。パン加工適性が高く、製粉会社から高い評価を得ており、今後も需要の増加が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培定期

県内全域の普通畑

(8) 裸麦「キラリモチ」

ア 来歴

「キラリモチ」は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センターにおいて、「四国裸 103 号」と「大系 HL107」（後の「とちのいぶき」）の一代雑種（F₁）を母、「四国裸 97 号」を父とする交配の後代から育成された品種で

ある。

イ 認定品種に指定する理由

「キラリモチ」は機能性成分含有量が高く、炊飯時の褐変が少ない精麦用品種である。実需者から高い評価を得ており、今後も需要の増加が見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

県内全域

(9) ベニバナインゲン「常陸大黒」

ア 来歴

「常陸大黒」は、在来品種の「在来白花豆」と在来品種（不詳系統）との自然交雑から育成された品種である。

イ 認定品種に指定する理由

「常陸大黒」は本県が育成した、種皮色が黒一色の品種であり、製菓等の原料として実需者から高い評価を得ている。平成30年より生豆の販売が開始され、今後は一般消費者からの需要の増加も見込まれることから、認定品種に指定する。

ウ 栽培適地

県北及び県央の中山間地域

4 特性表

(1) 水稻（飼料用米品種を除く）

品種名	早晩性	草型	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米 千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)
一番星	早生の早	偏穂数	7.18	8.22	73	19.1	402	24.1	53.7
あきたこまち	早生の早	偏穂数	7.18	8.23	78	18.2	399	22.8	55.3
ふくまる	早生の晩	中間	7.20	8.26	80	18.7	439	24.3	58.6
ひたち IL3 号	早生の晩	中間	7.21	8.26	80	19.1	438	24.7	58.4
ひとめぼれ	早生の晩	偏穂数	7.23	8.29	79	20.2	421	23.7	61.9
チヨニシキ	早生の晩	中間	7.23	8.29	76	20.4	378	24.2	61.7
ミルキークイーン	中生	中間	7.28	9.07	88	20.4	389	21.7	63.6
コシヒカリ	中生	中間	7.28	9.06	86	20.0	370	22.7	63.2
ゆめひたち	中生	中間	7.28	9.06	73	20.0	363	22.9	62.3
ひたち錦	晩生の早	偏穂重	8.01	9.15	76	20.6	309	25.3	55.6
あさひの夢	晩生	偏穂重	8.07	9.18	69	21.2	335	23.1	63.5
ココノエモチ	早生の晩	中間	7.22	8.27	71	19.1	383	23.3	54.1
マンゲツモチ	早生の晩	穂重	8.01	9.12	81	22.5	314	22.9	58.7

(1) (つづき)

品種名	腹白 の 多少	心白 の 多少	玄米 品質	食味	耐倒 伏性	耐冷 性	耐病性			
							葉い もち	穂い もち	紋枯 病	縞葉 枯病
一番星	無～ 微	微	上の 中	良	強	強	中	中	中	強
あきたこまち	微	微	上の 中	良	やや 強	やや 強	中	中	中	弱
ふくまる	微	微	上の 中	良～極 良	やや 強	極強	中	中	中	弱
ひたち IL3 号	微	微	上の 中	良～極 良	やや 強	極強	中	中	中	強
ひとめぼれ	微～ 少	微～ 少	上の 中	良～極 良	中	極強	中	中	中	弱
チヨニシキ	微～ 少	微	上の 中	やや良	強	やや 強	強	強	中	弱
ミルキークイーン	微	微	上の 中	極良	弱	極強	弱	中	中	弱
コシヒカリ	微	微	上の 中	極良	弱	極強	弱	中	中	弱
ゆめひたち	微	微	上の 中	極良	強	中	やや弱	中	中	弱
ひたち錦	少	多	上の 中	—	強	—	やや強	強	中	強
あさひの夢	微	無～ 微	上の 中	やや良 ～良	強	弱	中	強	中	強
ココノエモチ	—	—	上の 下	良	強	やや 強	やや強	強	中	弱
マンゲツモチ	—	—	上の 下	良	やや 強	やや 強	やや強	強	中	弱

ア 試験年次： 平成 26 年～平成 30 年、平成 29 年～令和元年*

イ 試験ほ場： 茨城県農業総合センター農業研究所

(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ 移植期： 5月7日、5月8日*

エ 施肥量 (10 a あたり) 基肥：窒素 6kg、リン酸 6kg、カリ 6kg

窒素 9kg、リン酸 9kg、カリ 9kg*

追肥：窒素 3kg、カリ 3kg

窒素 5kg、カリ 5kg*

*は「ふくまる」及び「ひたち IL3号」に適用する。

(2) 水稻 (飼料用米)

品種名	早晩性	草型	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米 千粒重 (g)	粗玄米重 (kg/a)
夢あおば	早生	穂重	8.02	9.22	90	21.5	345	24.7	76.0
月の光	早生の早	偏穂重	8.16	10.02	87	21.5	388	22.4	68.1

(2) (つづき)

品種名	腹白の多少	心白の多少	玄米品質	耐倒伏性	耐冷性	耐病性			
						葉いもち	穂いもち	紋枯病	縞葉枯病
夢あおば	多	多	下の 上	極強	やや弱	不明	不明	—	強
月の光	少	少	中の 上	強	—	強	強	—	強

ア 試験年次：平成 26 年～令和元年（「夢あおば」）、
平成 28 年、29 年、令和元年（「月の光」）

イ 試験ほ場：茨城県農業総合センター農業研究所
(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ 移植期：5月 22 日（「夢あおば」、5月 23 日（「月の光」）

エ 施肥量 (10 a あたり) 基肥：窒素 9kg、リン酸 9kg、カリ 9kg
追肥：窒素 5kg、カリ 5kg

(3) 陸稲

品種名	早晩性	草型	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米 千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)
ひたちはたもち	早生	中間	7.30	9.03	73	19.0	297	21.9	38.8

(3) (つづき)

品種名	玄米品質	食味	耐倒伏性	耐冷性	耐病性			
					葉いもち	穂いもち	紋枯病	縞葉枯病
ひたちはたもち	中の中	上の中	強	やや強	極強	強	—	強

ア 試験年次：平成16年～平成20年

イ 試験ほ場：茨城県農業総合センター農業研究所

(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ は種期：4月21日

エ 施肥量(10aあたり) 基肥：窒素5kg、リン酸7.5kg、カリ6.7kg 追肥：窒素2kg

(4) 麦類

種類	品種名	播性	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	千粒重(g)	子実重(kg/a)
小麦	さとのそら	Ⅳ	4.20	6.6	87	8.6	677	38.8	589
	きぬの波	Ⅱ	4.20	6.7	82	9.0	592	39.8	647
	ゆめかおり	Ⅱ	4.21	6.8	102	7.1	679	43.7	511
六条大麦	カシマムギ	Ⅱ	4.14	5.25	89	4.3	604	31.7	630
	カシマゴール	Ⅰ	4.13	5.25	88	4.2	729	30.1	691
二条大麦	ミカモゴールドン	Ⅰ	4.13	5.24	98	5.7	852	43.3	498
裸麦	キラリモチ	Ⅰ	4.14	5.27	84	6.7	1,077	36.1	492

(4) (つづき)

種類	品種名	外観品質	株の開閉	耐倒伏性	耐病性		
					さび病	うどんこ病	縞萎縮病
小麦	さとのそら	上の中	中	強	強	やや弱	強
	きぬの波	上の中	やや閉	強	中	やや弱	強
	ゆめかおり	中の上	やや閉	強	強	やや強	強
六条大麦	カシマムギ	上の中	中	弱	強	強	弱
	カシマゴール	上の中	中	強	—	強	強
二条大麦	ミカモゴールドン	上の中	やや閉	やや強	中	弱	やや強
裸麦	キラリモチ	中の上	やや閉	極強	—	極強	極強

ア 試験年次：平成25年～平成29年(は種年)

イ 試験ほ場：茨城県農業総合センター農業研究所

(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ は種期： 4月21日

エ 施肥量 (10 a あたり) 基肥：窒素 6kg、リン酸 6kg、カリ 6kg

追肥：窒素 4kg (小麦及び六条大麦)

オ 播性程度 I 及び II：春播型、III 及び IV：中間型、V～VII：秋播型

(5) 大豆

品種名	生態型	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	主茎 節数 (節)	結実 莢数 (莢/m ²)	百粒重 (g)	子実重 (kg/a)
里のほほえみ	II c	7.31	10.19	56	5.1	5.1	545	40.7	31.8
ハタユタカ	II c	8.02	10.18	63	6.1	6.1	733	33.3	38.4
納豆小粒	III c	8.08	10.25	79	6.4	6.4	1、624	11.0	29.7

(5) (つづき)

品種名	花の色	莢の 毛の 有無	つるに なり 易さ	耐倒 伏性	子実				
					色	へそ の色	形状	大小	品質
里のほほえみ	白	有	難	強	黄白	黄	偏球	極大	中の中
ハタユタカ	紫	有	難	やや強	黄白	黄	楕円	中の大	中の下
納豆小粒	紫	有	易	中	黄白	黄	球	極小	中の中

ア 試験年次： 平成 26 年～平成 30 年

イ 試験ほ場： 茨城県農業総合センター農業研究所

(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ は種期： 6月18日

エ 施肥量 (10 a あたり) 基肥：窒素 3kg、リン酸 10kg、カリ 10kg

オ 生態型 開花までの日数 II：短、III：中 結実日数 c：長

(6) そば

品種名	生態型	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	主茎 節数 (節)	千粒重 (g)	子実重 (kg/a)
常陸秋そば	中間～秋型	9.14	10.25	93	2.6	9.9	35.9	16.8

(6) (つづき)

品種名	食味	子実		
		整否	粒色	品質
常陸秋そば	良	整	黒褐	良

ア 試験年次： 昭和 60 年～平成元年

イ 試験ほ場： 茨城県農業総合センター農業研究所

(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ は種期： 8 月 21 日

エ 施肥量 (10 a あたり) 基肥：窒素 2kg、リン酸 3kg、カリ 4kg

(7) ベニバナインゲン

品種名	早晩性	伸育型	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	結実莢数 (莢/m ²)	百粒重 (g)	子実重 (kg/a)
常陸大黒	中生	無限つる性	8. 11	11. 01	106	189	36. 5

(7) (つづき)

品種名	胚軸 の色	花色	種皮の 斑紋の種類	種皮の 地色	種皮の 斑紋の色	種子の 環色
常陸大黒	赤紫	赤	無	黒	無	無

ア 試験年次： 平成 8 年～10 年

イ 試験ほ場： 茨城県農業総合センター農業研究所

(水戸市上国井町 表層腐植質多湿黒ボク土)

ウ は種期： 7 月 1 日

エ 施肥量 (10 a あたり) 基肥：窒素 1kg、リン酸 4kg、カリ 4kg